

# 「寺院活動における青少年教化活動の実態調査」(九州教区青少年部門実施)分析報告

～慶讃法要後の青少年教化の着実な歩みに向けて～

真宗教化センター寺院活性化支援室(企画調整局)

真宗教化センター寺院活性化支援室では、九州教区青少年部門が実施

した標記調査に協力し、九州教区の今後の青少年教化の充実と慶讃法要

後の宗門全体の青少年教化の着実な歩みを見据え分析作業を行った。

今回の調査結果を今後の教区・組・寺院・教会の青少年教化

の取り組みの参考にしていただくべく、調査結果の要点を掲載

する。なお、詳細な集計結果については、しんらん交流館ホ

ームページ「浄土真宗ドットインフォ」に掲載。

集計結果はこちら→



## 【調査概要】

● 調査対象…九州教区内全寺院・教会・別院788カ寺

● 調査期間…2021年9月1日現在の内容で調査

(同年12月20日最終締切)

● 調査方法…全寺院に対して、封書にて依頼状と調査票を送付

● 回答方法…次のいずれかの方法

① インターネット上のGoogleフォームからの回答

② 書面回答後、郵送・FAX・教務所や教務支所への持参

● 回答数と回収率…回答数…506カ寺(回収率…64.2%)

● 本調査における「教化の対象世代」の3区分…乳幼児…0歳～5歳

子ども…6歳～18歳

若者…19歳～35歳位

## 1. はじめに

本調査は、九州教区青

少年部門のスローガン

「未来の法灯をつなぐ」

青少年とのご縁づくり

をサポートする」のもと、

青少年教化に携わる

各人が、それぞれの現

場で「ひとりと出会う」

ことを大切にする中で、

寺院における子ども会の

結成や若者との出あいの

場の構築(若者教化)を、

具体的に教区がどのよう

にサポートしているの

かを検討することを念頭

に調査設計が行われた。

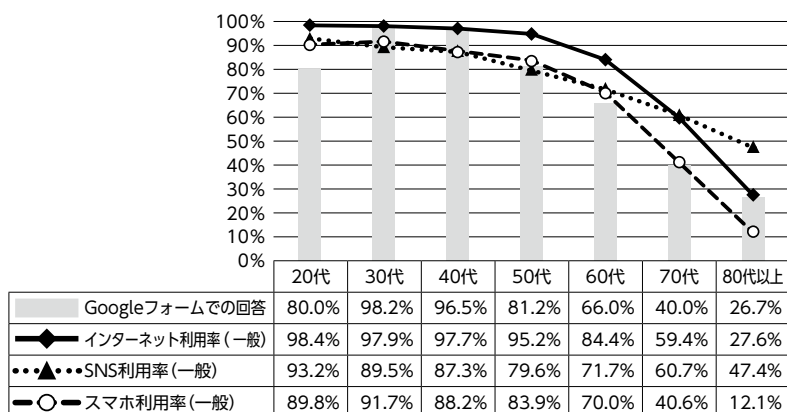
調査項目は、2018年

に山陽教区を対象に真宗

教化センター寺院活性化

## 《グラフ①》

《世代別インターネット利用状況の全国平均(総務省「通信利用動向調査」2021年)と本調査Googleフォームでの回答割合の比較》



## 「寺院活動における青少年教化活動の実態調査」(九州教区青少年部門実施) 分析報告

支援室が実施した調査(本誌2019年8月号に特集記事掲載)を元に、九州教区の意向を踏まえ必要項目を追加する等した。

なお、インターネット上でのGoogleフォームによる回答を推奨したところ《グラフ①》のように幅広い世代からの回答が得られ、全体では76%がインターネットからの回答となったことで、迅速な集計・分析作業が可能となった。また、九州教区の寺院のうち47.3%が過疎地(「過疎地域の持続的発展の支援に関する特別措置法」により指定された地域)に所在し、7.8%が政令指定都市に所在するが、本調査の有効回答全体の46.4%が過疎地所在の寺院からの回答、7.9%が政令指定都市からの回答であり、個々の寺院の状況は異なるものの、過疎地・都市部含め、様々な地域状況を反映した結果が得られたと考えられる。

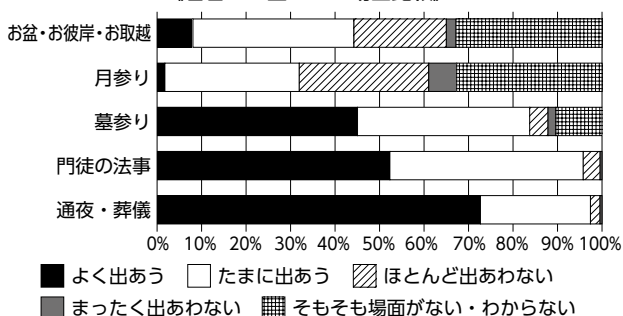
## 2. 日常の法務における青少年との出あいの可能性

## —すでにある場を大切に—

2018年の山陽教区での調査では、通夜・葬儀や法事の場合において、子どもや若者と出あう機会が多くあることがあらためてわかった。それに加えて、墓じまいを志向する中高年世代に対し、若者世代は墓参りに行く割合や、墓が必要だと思ふ割合が高いと指摘する他の機関が行った調査結果等を踏まえ、今回の調査では、墓参りにおける青少年との出あいの頻度も調査した。「たまに出あう」までを含めると6割から8割強の割合で、墓参りにおいて子どもや若者との出あいの機会があること

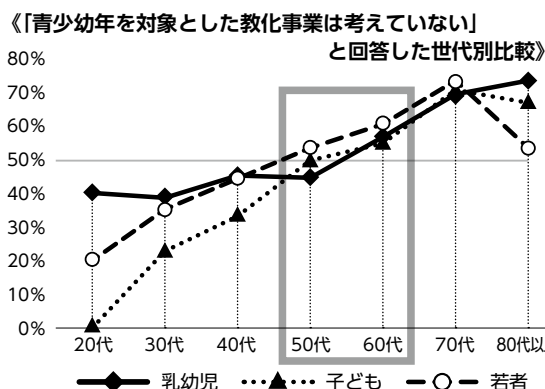
《グラフ②》

《若者との出あいの場面比較》



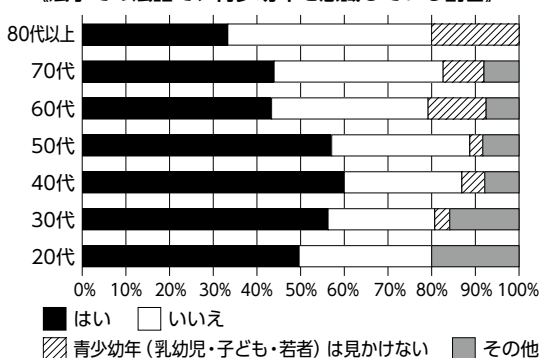
がわかった。また、法務における出あいの可能性が「教化の対象世代」の3区分の中で最も高かった若者との出あいの状況をみてみると《グラフ②》となり、通夜・葬儀、法事、墓参りともに出あいの機会が多くあることがわかる。次に、法事の中で青少年を意識して法話をしていくかどうかの結果を示したのが《グラフ③》となる。30代から50代の僧侶の半数以上が青少年を意識して法話をしていることがわかる。一方で、「青少年を対象とした教化事業は考えていない」と回答した割合が60代以上だという結果も踏まえ、「子どもや若者と普段接する機会がないので、接し方が難しい」と感じておられる世代の僧侶へのアプローチも考えていく必要があるだろう。

《グラフ④》



《グラフ③》

《法事での法話で、青少年を意識している割合》



### 3. 世代別青少年教化の現状と可能性

#### ―若者教化に注目―

九州教区における教化の対象世代別青少年教化事業の実施状況は《グラフ⑤》の通りであった。その内容を地域状況別に分析してみると、過疎地においては、取り組みなくなったという寺院も多いが、乳幼児・子ども対象の寺院も多く、過疎地所在寺院の方が政令指定都市所在寺院よりも現在取り組んでいる割合が高いことがわかった。一方、若者教化は都市部での取り組みの割合が増える。

現在取り組まれている教化事業の内容を見てみると、「花まつり」「子ども会」「初参り式」「青年会」といったこれまで取り組みが推奨されてきたものの他、「除夜の鐘への参加奨励」といった季節行事も上位に位置している。また、青少年を対象とした掲示伝道にも関心が高い様子が窺われる。

次に世代別教化の将来展望をみてみる。《表①》によると、若者対象の教化事業について「現在行っていないが、今後新たに教化事業に取り組みたい」と答えた割合が25.9%と、他の対象

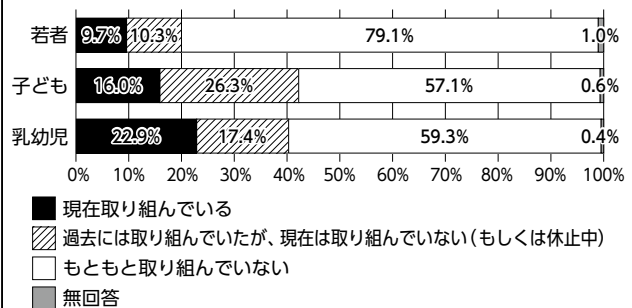
《表①》

《「現在行っていないが、今後新たに教化事業に取り組みたい」割合》

	乳幼児	子ども	若者
政令指定都市	22.5%	35.0%	37.5%
過疎	10.2%	16.6%	20.9%
その他	16.5%	20.3%	29.0%
全体	14.0%	19.8%	25.9%

《グラフ⑤》

《教化対象世代別青少年教化事業の実施状況》



### 4. 今後の展望

世代に比べると高いことがわかる。さらに、過疎地においても2割を超える寺院で若者教化に前向きな傾向がみえてきた。さらに過疎地以外の地域においても、若者教化は、乳幼児や子ども対象に比べると「新たに組みみたい」という割合が高いこともわかる。また、「青少年教化は親の協力が必要」と自由回答に指摘があったように、乳幼児や子どもを対象とする教化と若者教化は相互に連動する可能性のある取り組みであるといえる。以上のことから、若者教化の可能性を踏まえた取り組みをさらに進めていく必要性が窺える。

寺院活動における青少年教化活動の今後のサポートのあり方を考えるにあたっては、2つの方向性をもっておく必要がある。まず1つは、今回の調査で明らかになった青少年教化に取り組んでおられる寺院(乳幼児・22.9%／子ども・16.0%／若者・9.7%)への継続支援という視点である。つまり、「日曜学校」や「仏青活動」を源流として、現場の寺院がこれまで大切に歩んでこられた歩みを、「少子化」や「移動社会」といった時代の変化のただ中にあっても、継続して場を開き続けていたためのサポートという方向性。もう1つは、「子どもや若者がいない」という状況の中で、青少年教化をあきらめざるを得なかった寺院に対する無理のない方法の提示である。その前提として、仏事の方での工夫など、すでにある青少年との出あいの機会に、僧侶側が青少年教化の視点を持つて積極的に子どもや若者に出あっていくという意識の転換も必要となるであろう。

乳幼児・子ども・若者という教化の対象世代への教化事業に取り組めない理由の1位が「参加してくれるような青少年がいない」、2位は「法務や他の仕事が忙しい」であった。このように、青少年教化に「取り組みめない」と考えておられる寺院の状況に、どのようにアプローチしていけばよいかを考察してみると、以下3つのサポートの方向性が見えてくる。

## 「寺院活動における青少年教化活動の実態調査」(九州教区青少年部門実施) 分析報告

①「参加してくれる青少年が少ない」

↓ 少人数でも取り組める青少年教化の可能性を提示

②「法務が忙しい」

↓ 法務そのものが青少年教化の場となるような「ひと工夫」を提示

③「担い手がない」

↓ それぞれが場を開いていくために協力できる体制づくりや、各寺院の状況に応じた「これなら私にできそうだ!」と思える事例提示

一方、その前提として、本山や教区が製作する教材やサポート事業が十分に知られていないということも本調査の結果からみえてきたことであり、それらの周知と共に、その活用方法を伝えていくことも大切であると思われる。

なお、今回の調査分析はあくまで全体傾向の概観であり、各寺院の状況は千差万別であることは論を俟たない。各寺院へのサポートのあり方としては、各寺院の置かれた状況や強みを活かした教化方法を共に考えていくという「一カ寺の活性化」の視点が、まずもって重要であることを申し添えておきたい。

秋の法務多忙な時期における調査にもかかわらず、本調査にご協力賜りました九州教区の皆さまに、あらためまして厚く御礼申し上げます。

青少年教化支援に関するご相談は、  
真宗教化センター寺院活性化支援室 (TEL 075-371-9208) まで。

## 「ほとけの子風船」を 活用してみませんか？

お参り先で

お盆の墓経の場で

子ども会などの  
記念品として

無償教化物



「ほとけの子」風船

年に何度か訪ねて来る富山の薬売りが、置き薬とともに“おみやげ”としてくれた風船。

「懐かしいなあ…」、そんな思い出はありませんか？

子どもたちの記憶に残る仏事とするための“ひと工夫”。

「ほとけの子ってなあに？」そんな疑問符からはじまる教化の形もきっとあります。

[30個入550円(税込)]

【お申し込み】 東本願寺出版 (TEL: 075-371-9189)

※風船と一緒に宅配いただける無償のリーフレットやキャラクターシールもあります。詳しくは右のコードより、「各種記念品のお取り扱い」をご覧ください⇒  
無償の教化教材については、青少年センター  
(TEL: 075-354-3440) へお問い合わせください。

